

様式3

令和5年度ふるさと人材・地域づくり推進事業  
「持続可能な地域づくり充実事業」実施報告書

学校番号	32	学校名	大曲農業高等学校	(全・定)
------	----	-----	----------	-------

実施した内容について次のとおり報告します。

テ ー マ	大仙市農業振興情報センター研修生との相互交流
実 施 日 時	令和5年10月 4日 (水) 12:40~15:00 令和5年12月19日 (火) 13:30~15:00
場 所	令和5年10月 4日 (水) 大仙市農業振興情報センター 令和5年12月19日 (火) 大曲農業高等学校
参 加 人 数	令和5年10月 4日 (水) 本校生徒 22名、研修生 8名 令和5年12月19日 (火) 本校生徒 26名、研修生 8名
実 施 内 容 ・ 状 況 等	<p>相互交流は、新規に就農を考えている大仙市農業振興情報センター研修生（以下、研修生）と、本校で将来農業に関わろうと考えている生徒の意見交換などを行う機会として、年2回実施した。</p> <p>1回目は、農業振興情報センターの視察研修を行い、センターの概要や圃場を案内していただいた。</p> <p>2回目は研修生を含めた4グループでのグループワークを行った。お勧めの作目や適正な経営規模、農地の取得などについて、より具体的な将来設計、マイライフプランを作ることを目的に実施した。</p> <p>また、本事業とは異なるが、もう一つの交流の機会として、冬季農業の先進農業者の取組を視察した際、研修生にも参加していただいた。そこでは、農業の周年経営に向けた計画を具体化するための視野を広げることができた。</p>
成 果 と 課 題	<p>相互交流後のアンケートによると、ほとんどの生徒が「漠然とした将来の目標が具体化され、経営に向けた知識などを得ることができた」といった感想をもち、多くの生徒が研修を通じて様々なスキル等が身に付いたことから、一定の効果があつたと考えている。</p> <p>さらに、研修生とのつながりができたことも大きな成果である。研修生の方々とは、いわゆる農業の先輩として就農前の今はもちろん、就農後も関わる場面があると思われる。その関係作りができたこともこの相互交流のもう一つの目的であり、成果であつたと感じている。</p> <p>課題としては、発言が少ない生徒も多く、研修生からの一方的な助言になってしまう場面が多かつた。この交流事業をより充実させるには、生徒のコミュニケーション能力の向上が必須であると感じた。</p>

※ 取組ごとに作成すること。

新聞記事の写しや実施状況を撮影した画像(4枚程度)を様式4に貼り付け、添付ファイルとして提出すること。

一つの画像データは、200KB以下にすること。

実施後、1か月以内に提出すること。

様式 4

令和 5 年度ふるさと人材・地域づくり推進事業  
「持続可能な地域づくり充実事業」実施報告書

※一つの画像データは、200KB以下にすること。

学校番号	32	学校名	大曲農業高等学校	(全)・定)
------	----	-----	----------	--------



【農業振興情報センター研修生との顔合わせ】



【農業振興情報センター 圃場・施設見学】



【農業振興情報センター研修生と質疑応答】



【相互交流 アイスブレイクの様子】



【相互交流 意見交換の様子】



【相互交流 マイライフプラン発表の様子】